

ライトニング・トーク 発表要旨

ジョグジャカルタ特別州のプサントレンを取り巻く社会的ネットワーク
—ワリアの福祉活動および独立支援を中心に

**Social Network Surrounding a *Pesantren* in Yogyakarta:
With a Focus on Their Welfare Activities and Independence Support**

坂井美咲（東洋大学大学院）

SAKAI Misaki (Graduate School of Sociology, Toyo University)

本研究はジョグジャカルタ特別州の MtF トランスジェンダーであるワリアを調査対象とし、彼女たちをとりまく社会的ネットワークとその意義を明らかにすることを目的としている。具体的には、ジョグジャカルタ特別州バントウル県のプサントレンに集うワリアを調査対象とする。本発表では特に、彼女たちの行う福祉活動および自立支援について現地調査に基づき報告する。なお、本発表は修士論文執筆に向けた報告である。

イスラームの教義が深く根付くインドネシアでは、性的マイノリティは差別の対象となることが多い。1998 年の民主化後、性的マイノリティは自らの性的アイデンティティを公表して社会活動に参加するようになったが、他方でイスラーム勢力等による彼女らへの差別も顕在化する結果をもたらした[大形 2019]。インドネシアにおける性的マイノリティの政治参加などについての研究はされてきたが、長期的な現地調査等に基づく性的マイノリティの生活史に関する研究は不十分である。

報告者は、2020 年に同プサントレンの主宰者らを対象に約 1 ヶ月間の予備調査を実施した。SNS を用いた聞き取り調査を経て、2022 年 8 月から彼女たちの活動と支援者に関する現地調査を実施している。

調査を通じて、同プサントレンは支援者や寄付を食費や授業、プサントレン生誕祭等のイベント開催、アドボカシー活動、そして高齢ワリアのための福祉的活動および自立支援活動に活用していることが判明した。同プサントレンは、支援者からの寄付によって活動の大部分を運営している点や、メンバーの大多数が 50 代前後のワリアである点で、一般的なプサントレンとは異なる。経済的困難を抱えつつエイズと共に生きる高齢のワリアにとって、無償のエンパワーメントとケアの拠点は必要不可欠であろう。同プサントレンは宗教教育の拠点でありながらも高齢ワリア支援に特化した福祉施設としての役割を果たしているといえる。

大形里美

2019 「インドネシアにおける LGBT 運動を取り巻く状況—LGBT 運動の展開の近年の対立の構図」 『九州国際大学国際・経済論集』(3): 47-78.